

甲 第 号

森田 修蔵 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	川口 昌彦
論文審査担当者	委員	教授	朴木 寛弥
	委員(指導教員)	教授	田中 康仁

### 主論文

Dexamethasone added to levobupivacaine prolongs the duration of interscalene brachial plexus block and decreases rebound pain after arthroscopic rotator cuff repair.

鏡視下腱板修復術の斜角筋間腕神経叢ブロックにおいて、レボブピバカインにデキサメサゾンを加えると鎮痛時間が延長するのみならず、術後リバウンドペインが減少する。

Shuzo Morita, Naomi Oizumi, Naoki Suenaga, Chika Yoshioka, Shintaro Yamane,

Yasuhito Tanaka.

Journal of Shoulder and Elbow Surgery 2020 Sep;29(9):1751-1757

## 論文審査の要旨

斜角筋間神経叢ブロックでのステロイド追加の鎮痛持続効果は報告されているが、ブロック効果消失後の疼痛増強（リバウンドペイン）に関する研究はない。本研究では、鏡視下腱板修復術 54 例を対象に、斜角筋間神経叢ブロックにおいて、0.25%レボブピバカイン 20ml 投与の L 群と、0.25%レボブピバカイン 20ml にデキサメサゾン 3.3mg を追加した LD 群で術後の鎮痛効果と合併症について検討した。結果、術当日と術 1 日目の VAS 値は LD 群で有意に低かった。また、初回鎮痛薬使用まで時間は LD 群で有意に長く、追加鎮痛薬使用回数は LD 群で有意に少なかった。斜角筋間神経叢ブロックに伴う合併症は認めなかった。鏡視下腱板修復術において、レボブピバカインにデキサメサゾンを加えると、斜角筋間神経叢ブロックの鎮痛時間が延長するのみならず、ブロック効果消失後のリバウンドペインが軽減すると結論している。

公聴会では、群の振分け方法、鎮痛薬の追加投与基準、ステロイド使用時の注意点、エピネフリンの作用持続延長効果との差異、リバウンドペイン改善効果のメカニズム、神経ブロック施行のタイミング、リハビリ開始時期や肩関節可動域などのアウトカムへの影響などの質問に対して、適切な質疑応答がなされていた。臨床的に非常に重要な知見であり、本領域の発展に寄与する研究であり、医学博士の学位に値すると評価する。

## 参 考 論 文

1. Glenoid bone resorption after Bankart repair: finite element analysis of postoperative stress distribution of the glenoid.

Inoue K, Suenaga N, Oizumi N, Yamaguchi H, Miyoshi N, Taniguchi N, Morita S, Kurata S, Tanaka Y

J Shoulder Elbow Surg. 2020 Jun 9:S:1058-2746(20)30369-4

2. Humeral bone resorption after reverse shoulder arthroplasty using uncemented stem.

Inoue K, Suenaga N, Oizumi N, Yamaguchi H, Miyoshi N, Taniguchi N, Morita S, Munemoto M, Kurata S, Tanaka Y

J Shoulder Elbow Surg. 2020 Jan 14;4(1):138-143

3. 上腕骨近位端骨折に対する cannulated cancellous screw 固定法

森田修蔵、水掬貴満、仲川喜之、江川琢也、田中康仁、二階堂亮平  
骨折 40 卷 3 号 Page728-731(2018.06)

4. 上腕骨結節間溝内に発生した上腕二頭筋長頭腱石灰性腱炎の 2 例

森田修蔵、仲川喜之

肩関節 40 卷 3 号 Page1087-1090(2017.03)

5. 肩甲骨関節窩骨折 Ideberg 分類 type 3, type 4 の再定義  
仲川喜之、水塚貴満、倉田慎平、奥本洋樹、澤井孝一、池田智恵子、仲川喜之、江川琢也、井上和也、田中康仁、酒本佳洋、森田修蔵、二階堂亮平  
骨折 39 卷 1 号 Page69-73(2017.02)
  
6. 尺骨鉤状突起骨折に対する低侵襲手術  
森田修蔵、重松浩司  
整形外科最小侵襲手術ジャーナル 78 卷 Page49-54(2016.2)
  
7. 上腕骨結節間溝内に発生した上腕二頭筋長頭腱石灰性腱炎の 1 例  
森田修蔵、仲川喜之、江川琢也、倉田慎平、井上大典、奥本洋樹  
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 58 卷 6 号 Page1127-1128(2015.11)
  
8. 上腕骨小結節骨折に対する肩関節鏡視下手術  
森田修蔵、櫻井悟良  
整形外科最小侵襲手術ジャーナル 71 卷 Page59-64(2014.5)
  
9. 就学前児童の大腿骨骨幹部骨折に対する Kirschner 鋼線を用いた逆行性弾性髄内固定法  
井川真依子、斉藤昌彦、速水直生、森田修蔵、重松浩司、石崎嘉孝  
骨折 36 卷 2 号 Page347-350(2014.03)

10. 5歳以下の大腿骨骨幹部骨折に対し逆行性弾性髄内固定を施行した3症例

井川真依子、斉藤昌彦、速水直生、森田修蔵、石崎嘉孝

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56 巻 5 号 Page1197-1198(2013.9)

11. 尺骨鉤状突起骨折に対する低侵襲手術

森田修蔵、重松浩司、大西正展、斉藤昌彦、石崎嘉孝、田中康仁

骨折 35 巻 3 号 Page554-557(2013.09)

12. 急性化膿性骨髄炎に対する抗生剤含有リン酸カルシウム骨ペーストによる治療経験

森田修蔵、岸田俊一、佐藤公治、安藤智洋、深谷泰士

中部日本整形外科災害外科雑誌 54 巻 2 号 Page353-354(2011.3)

13. 仙骨骨折に対する iliosacral screw 固定術において 3D navigation を使用した1例

森田修蔵、竹上靖彦、岸田俊一、片山良仁、安藤智洋、佐藤公治

整形・災害外科 54 巻 2 号 Page207-210(2011.2)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年12月8日

学位審査委員長

侵襲制御・生体管理医学

教授 川口 昌彦

学位審査委員

運動器再建医学

教授 朴木 寛弥

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

教授 田中 康仁